

日蓮大聖人御書全集

はきいどのごほう

波木井殿御報

新版  
1817  
）  
1818

はきいどのごほう

# 波木井殿御報

こうあん ねん

弘安5年(82)

がつ にち

9月19日

さい

61歳

はきいさねなが

波木井実長

かしこ もう 道

畏み申し候。みちのほど、べち事候わで、いけがみま

着 着 そうろう 程 別 じそうら 池 上

でつきて候。みちの間、山と申し、かわと申し、そこば

だいじ そうら 公 達 守

く大事にて候いけるを、きゆうだちにす護せられまいらせ

そうら なん 着 そうら 恐 い

候いて、難もなく、これまでつきて候こと、おそれ入り

そうら よろこ ぞん そうら

候いながら、悦び存じ候。

帰 そうら みち そうら

さては、やがてかえりまいり候わんずる道にて候えど

しよ 勞 身 そうら ふ 定 そうら

も、所ろうのみにて候えば、不じようなることも候わん

にほんこく

持 扱

ずらん。さりながらも、日本国にそこばくもてあつこうて

そろうろう身

くねん

ご 帰 依 そろうら

おんこころ

もう

候みを、九年まで御きえ候いぬる御心ざし、申すばか

そろうら

し

そろうろう

墓

身 延

りなく候えば、いづくにて死に候とも、はかをばみのぶ

沢

そろうろう

そろうろう

さわにせさせ候べく候。

栗 鹿 毛

おんうま

面 白

覚

そろうろう

また、くりかげの御馬は、あまりおもしろくおぼえ候ほ

失

そろうろう

常 陸

湯 引

どに、いつまでもうしなうまじく候。ひたちのゆへひか

そろうら

おも

そろうろう

ひと

盗

そろうら

せ候わんと思ひ候が、もし人にもぞとられ候わん、ま

勞

覚

湯

帰

そろうら

たそのほかいたわしくおぼえば、ゆよりかえり候わんほど、

上 総

藻 原 どの

預

置

そろうろう

かずさのもばら殿のもとにあずけおきたてまつるべく候

知

舍人

付

そうら

覚

束

覚

に、しらぬとねりをつけて候いてはおぼつかなくおぼえ

そうろう

罷

帰

そうら

付

置

そうら

候。まかりかえり候わんまで、このとねりをつけおき候

存

そうろう

わんとぞんじ候。

様

ご存

知

もう

そうろう

きようきようきんげん

そのようを御ぞんちのために申し候。恐々謹言。

くがつじゅうくにち

九月十九日

にちれん

日蓮

しんじよう

はきいどのごほう

進上 波木井殿御報

しよ 勞

判

形

加

そうろう

おそ

所ろうのあいだ、はんぎようをくわえず候こと、恐れ

い そうろう

入り候。